

1 研究の背景と経緯

社会的背景

現代は、予測が困難な時代と言われ、一人一人が個人として、主体的に判断して社会の成長につながる新たな価値を生み出さなければならない時代です。子供たちが自ら未来を切り拓いていくための資質・能力を一層確実に育成することが求められています。子供たちは、自分の所属している集団や組織、更には社会に必要な情報を収集し選択・活用して、課題を解決していくかなければならないのです。

①学習指導要領解説

第1章総説

②中央教育審議会

答申197号 p11

「今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍するころには、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えると予想される。①」

「変化が激しく将来の予測が困難な時代にあってこそ、子供たちが自信を持って自分の人生を切り拓き、よりよい社会を創り出していくことができるよう、必要な力を確実に育んでいく②」

このように、学校は大きな変革を求められています。学校は、子供が必要なことを自ら学ぶ場であるべきなのです。

これまでの研究

③姫野完治 2016

本校はこれまで、子供の主体性を重視した研究を脈々と続けてきました。近年は、平成25年よりアクティブ・ラーニング（以下、ALと略）について研究を進めてきました。「『教える』から『学ぶ』へのパラダイムの転換③」とあるように、ALの要旨は「教師の教えたい」から「子供の学びたい」への変換です。一貫して「子供の学びたい」を引き出す教師の直接的・間接的な支援について研究してきました。

ALの研究では、多くの成果があり、子供が対話的に学ぶ学習形態（グループやペアによる学習）について豊富な知見が得られました。また、子供の主体性を引き出す単元構成について、研究が深まりました。一方で、子供の主体性を重視する余り、指導すべき内容と学習内容が乖離しそうになってしまったり、子供の活動は極めて活発ですが、必ずしも深い学びに結びつかなかつたりすることもありました。

学びの文脈

授業は、「教える内容」と「子供」、「教師」が複雑に絡み合って構成されています。教師の教える内容は学習指導要領に規定されており、子供の学びたいと感じる内容は、必ずしも学ぶべき内容とは限りません。子供の興味・関心は、無限大です。教師の意図しない方向に子供の関心が向いてしまう場合が多くあります。特に、子供の主体性を大切にすればするほど、授業の目的と違う方向に子供が向かってしまうこともあります。

この解決策として、平成29～30年に主眼を置いたのが「学びの文脈」です（図1）。「教える内容」を子供が学びたいと願うような文脈に教師がコーディネートするのです。時には、指導内容を入れ替えたり、合科的にしたり、異学年との関係を取り入れたりします。

「教える内容」を「子供の学びたい内容」へと変換する「学びの文脈」について2年間研究を続けました。

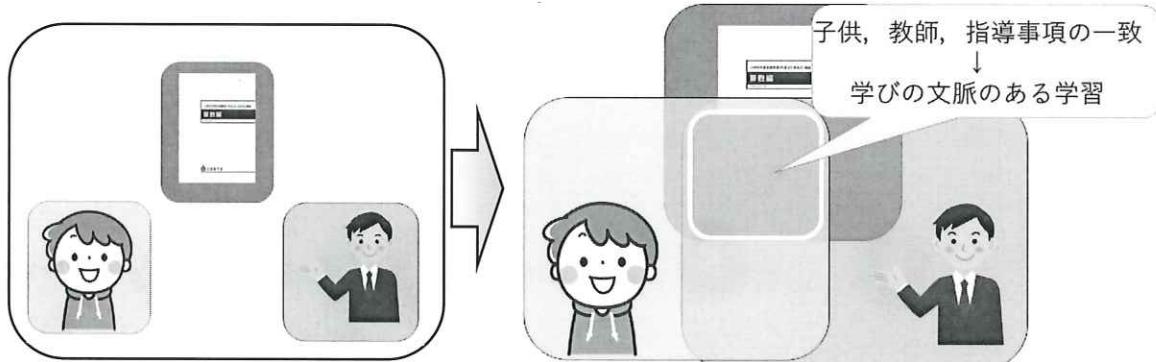


図1 学びの文脈のある学習

本校の実態 本校は、「学びの文脈」を大切にした子供主体の学習について研究を進めてきました。その結果、本校の子供は、発表したり表現したりする力が高くなりました。対話も大好きです。目標に向かって粘り強く取り組むことができます。
しかし、活動を途中で調整したり、相手の考えを受容して大きく方向転換したりすることには苦手意識を感じている子供が多いのが実態でした（図2）。



図2 子供の実態

本校の課題 学びの文脈の研究によって、ますます子供の主体性は高まり、本校の教師も、子供の成長を実感しました。しかし、ここで大きな課題が生まれました。学びの文脈の中で、子供が生き生きと活動する姿・主体的に対話的に学ぶ姿に系統性はないのか。深く学ぶ姿に発達段階はないのか・・・。我々に語るすべは、ありませんでした。これまでの本校の研究は、各教科がそれぞれに計画を立てて、それぞれにカリキュラム・マネジメントをしている趣が強かったです。全体としての統一感や、ゴールのイメージの共有が弱かったです。本校の教師もまた、目標に向かって粘り強く取り組み、考えを主張する点は極めて強いのですが、全体で足並みを揃えたり、調整したりバランスをとったりするという点に弱みをもっていることに気がついたのです（図3）。



図3 教師の実態

2 子供が学びをつくる学校の構想（令和元年度研究）

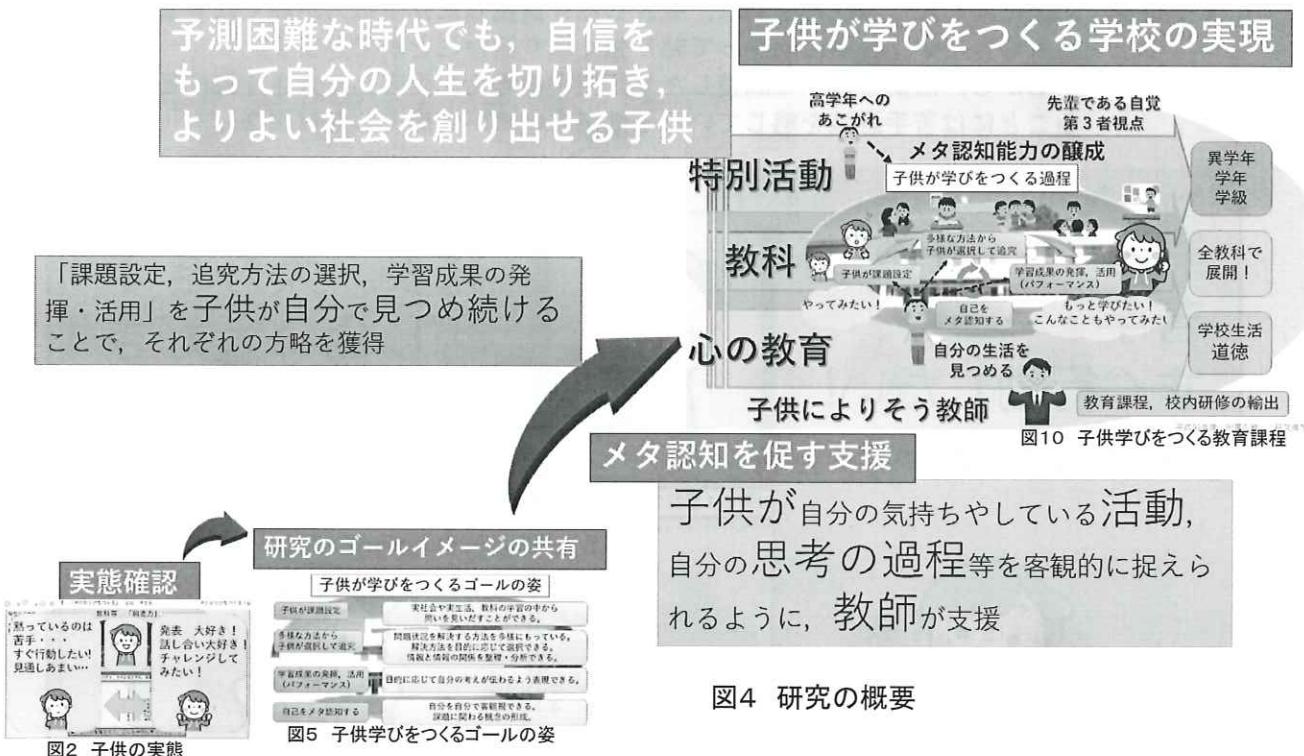


図4 研究の概要

図4が、本校の令和元年度の研究の概要です。前述の本校の実態把握に基づき、研究のゴールイメージを子供の具体的な姿「子供が学びをつくるゴールの姿」(図5)と規定しました。そのためには、子供が自分で自己を見つめ続けることが必要だと考えました。

子供が自分の気持ちや取り組んでいる活動、自分の思考の過程等を客観的に捉えると、自分の学びの度合が自らわかつたり、自分が何をすべきなのに気付いたり、自分の役割に気付いたり、自分らしさを發揮するタイミングを推し量ったりすることができるはずです。さらに、「やってみたい!」「もっとやりたい!」「でも、ここは友達に譲ろう」「ここだ!ここが自分の出番だ!」と高いモチベーションの中で自己発揮の場を探すようになるはずです。子供は学びの主体者として、仲間と力を合わせながら学ぶのです。

メタ認知を促す支援を工夫することによって、本校の子供の特徴である高いモチベーションを維持し、活動を調整したり目的に応じて選択したりして、主体的に学び続けることができると考えたのです。そして、予測困難な時代でも、自信をもって自分の人生を切り拓き、よりよい社会を創り出せる子供になっていくのです。

そこで、平成附属小の研究で培った学びの文脈に基づくアクティブ・ラーニングにメタ認知能力を強化するよう、全教育課程で全教員が一丸となって取り組むことで、「子供が学びをつくる」を実現していくこととしました。

子供が学びをつくる過程 (図6)

子供が自ら課題を設定します。「子供のやってみたい!」「学んでみたい!」が全ての出発点です。これまでに身につけた多様な解決方法から、目的に応じて子供が選択して、解決に向かって追究し続けます。最後には、学習の成果をそれぞれの方法で相手を意識して表現します。それぞれの過程で、子供は自己を客観視して、これまでの経験と照らし合わせてモニタリングして、活動を調整したり吟味したりします。

これらの一連の過程によって、子供が学びをつくるのです。

子供が学びをつくるゴールの姿

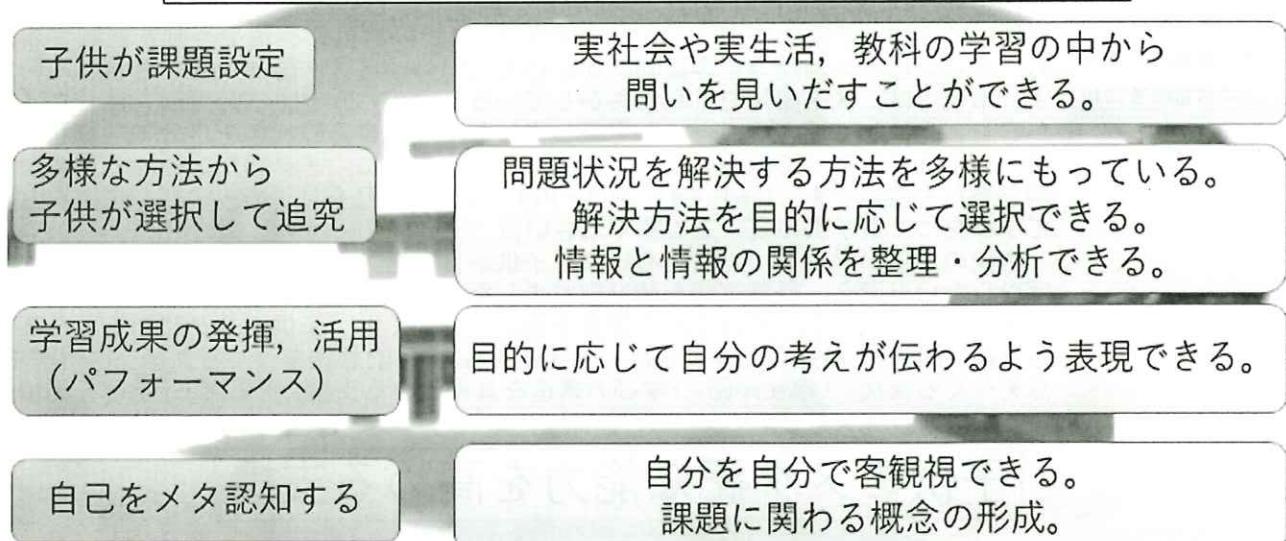


図5 子供が学びをつくるゴールの姿



図6 子供が学びをつくる過程

子供が学びをつくるの定義

「子供が、実社会や実生活、教科の学習の中から問い合わせを見いだし、多様な方法から主体的に選択して解決し、目的に応じて表現する。それらの過程で、自らの学びを客観視し、価値付けて次の学習に生かしていること」を「子供が学びをつくる」と定義しました。

教科の学習はもちろんのこと、道徳や活動、更には行事等、教育課程全てで「子供が学びをつくる」に向かって取り組むこととしました。そこで、より具体化する必要性に迫られ、「子供が学びをつくるゴールの姿」について議論を深め、4つのゴールの姿を具体的に規定しました。全教員がゴールの姿に向かって教育活動に邁進するのです。

3 昨年度の研究のリフレクションによる令和2年度研究の重点

自己を メタ認知する

- ④フレイヴェル 1976
⑤三宮真知子 2013
⑥中教審報告 2019

昨年度は、4つの姿の中で「自己をメタ認知する」を中心に取り組んでいきました。メタ認知は、1976年にフレイヴェル④によって導入された概念です。認知についての認知、すなわち私たちの行う認知活動を対象化してとらえることを意味します⑥。児童生徒の学習評価の在り方についての報告では、「自己の感情や行動を統制する能力、自らの思考の過程等を客観的に捉える力（いわゆるメタ認知）⑥」とされています。本校では、メタ認知を「私たちがしている『分かろうとする』活動を自分で『分かる』ようにして捉えること」と定義しました。今の自分の状態を自分で理解して、次への手立てを考えて調整したり、統制したりする際に、メタ認知は極めて重要な役割を果たす能力です。（詳しくは、P12・P13「目指す自己を見つめ、学びの主体者として学びをつくる子供の姿」をご覧ください。）

本校の子供が学びをつくるためには、子供が自己をメタ認知する能力を高めなければならないと考え、授業実践を積み重ねました。授業者一人一人が、授業のリフレクションを行いました。それぞれの授業を整理していくと「子供のメタ認知能力を高める支援（図7）」が見えてきました。「子供に明確な目的意識をつくる支援」「学びの構造を具現化する支援」そして、「学びを価値づける問いかけの支援」の5つの支援です。

子供のメタ認知能力を高める支援



図7 子供のメタ認知能力を高める支援

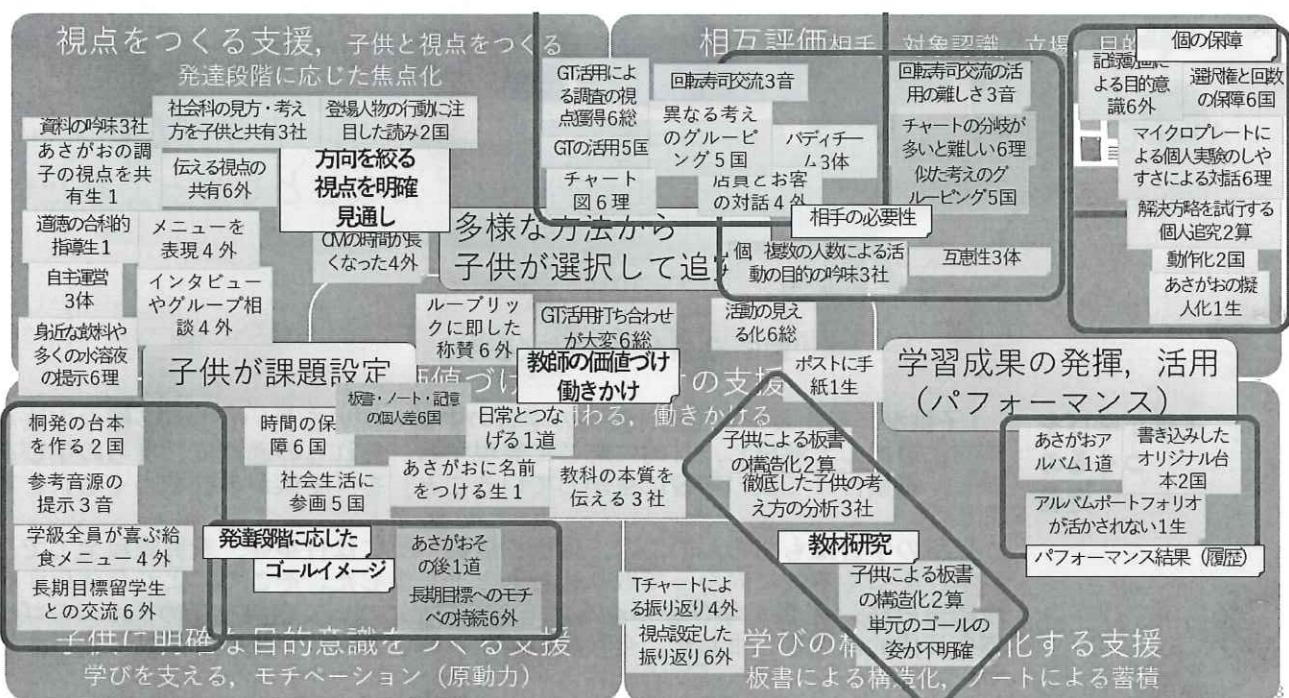


図8 令和元年度支援のまとめ

令和元年度 支援のまとめ (図8)

子供のメタ認知能力を高める支援を更に具体化するために、KJ法によるグループワークと、話し合いを行いました。その結果が、図8です。子供に明確な目的意識をつくるためには、発達段階に応じたゴールイメージを教師側が明確にもつことが必要だと分かりました。学習の視点を子供がもてるようにするためには、学習の方向を絞ったり視点を明確にする見通しをもたせたりする支援が必要なことが分かりました。効果的に相互評価を行うためには、個の学習の保障を十分に行なった上で、相手意識を明確にもたせることが必要なことがわかりました。学びの構造を具現化するためには、子供のパフォーマンスの結果の「見える化」と、何より教師の深い教材研究が大切なことを実感しました。そして、これら全てをつなぎ合わせる教師の働きかけと価値づけの支援がとても大切なことが共通確認されました。

令和2年度研究

子供のメタ認知能力を高める支援が具体化されるにつれ、子供一人一人が高いモチベーションをもって学び続けられるようになることが本当に重要なことが分かりました。子供の学習への高い目的意識によってメタ認知が促進され、更に学びが深まっていくのです。すなわち、子供が学びをつくり続けることが実現するのです。そこで、今年度は、子供が学びの主体者となる授業を目指すこととしました。昨年度の研究の成果である高まったメタ認知能力を活かして、研究の副主題を「自己を見つめ、学びの主体者となる子供の育成」としました。



自己を見つめる

「自己を見つめる」とは、自らの学びを客観視し、価値づけて、次の学習に生かそうとする姿です。一人ひとりの子供が自分を見つめることで、自己の学びを客観視するのです。

学びの主体者

「学びの主体者」とは、子供が実社会や実生活、教科の学習の中から問い合わせを見いだし、多様な方法から主体的に選択して解決する姿です。学習への高いモチベーションをもって子供が自ら学びをつくり続けるのです。

カリキュラム・マネジメント による支援

子供が本当に学びの主体者となるためには、子供自身の真なる問い合わせをスタートしなければなりません。子供が心から追究したいと願う学習でなければ、子供の本気は引き出せません。子供の「これ！やってみたい！」を引き出すのは簡単なことではありません。昨年度の研究の結果、明確なゴールイメージや相手の必要性が重要なことが分かっています。子供の「？」は日常生活に沢山隠れています。「朝顔の花が一杯咲いたよ！いくつあるんだろう？」「雨が降ったら水たまりができるたよ。でも水たまりのないところもある…」等、前者であれば1年生の生活科や算数科の学びにつながります。

す。後者は、4年生の理科につながります。一つの教科の中や他教科、活動を関連させるカリキュラム・マネジメントによって、子供の「？」を「学びたい」に変換していくのです。

子供が学びの主体者として資質・能力を存分に發揮できる学びの文脈を教師と子供がともにつくり上げるのです。

自己をみつめる インクルーシブな支援

子供が学びの主体者として活躍する際には、子供が自己をしっかりと見つめることができます。「どうやって追究したらいいのかな?」「どの方法を選択しよう」と子供は悩みます。過去の学習経験を想起し、「あ!表にまとめてみよう!」「棒グラフの方がいいかな?」等、考えるのであります。時には、「この追究方法じゃ駄目みたいだ。困った。」「考えを上手く表現できないな。」と行き詰まることもあります。子供が困る時こそ、成長のチャンスです。必要に応じて教師が仲間と対話的に学びを進めるよう促したり、直接支援をしたりして。一人ひとりの子供が自分を見つめることができるようにインクルーシブな支援をすることが重要です。

おわりに

本校は、全教科、全教育活動を通して子供が学びをつくることを大切にして指導にあたります。子供一人ひとりが学びの主体者となるよう教師は、裏方に徹します。教師がカリキュラム・マネジメントを常に意識することで、子供は更に主体者として活躍できると信じています。

本校は前述の通り子供の主体性を重視した研究を脈々と行っています。本校の桐の子スポーツ祭（いわゆる運動会）は、例年5月末に実施され、全校を縦割りの4組に分け、優勝杯を競い合います。前年度の9月から子供たちの代表である桐の子スポーツ祭実行委員が中心となり、スポーツ祭のテーマ、内容等を全て子供が企画・立案します。スポーツ祭の組リーダーは、異学年の100人余りの集団のテーマや練習計画等を考え、実際に運営していきます。実にダイナミックな行事であり、「子供が行事をつくる」のです。桐の子発表会（いわゆる学芸会）も同様に子供の代表が中心となって企画・立案・運営していきます。

しかし、今年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、活動が全般的に制限されました。5月の休校もあり、全校どころか学年すらも集まって活動することが困難な状況に陥りました。本校の6年生は、「できることを探して、今できる最高のことをする!」と話し合い、実行委員を中心に、今年できるスポーツ祭を模索し続けました。その結果、6年生の考えたダンスを動画にして、全校に配信し、各学年で踊ってもらうようにしたり、4つの組の旗を作成して玄関に掲示したり、体育の時間に、グランドで学年でのミニスポーツ祭を企画したりしました。

委員会活動、修学旅行等の各種行事も、様々な制限の中、子供と教師、保護者が一体となり、今できる最高のことを模索する1年でした。我々教師は、子供のひたむきな姿に感動を感じながら、改めて学びの主体者は子供なんだと実感しました。

今年度は研究大会も中止となり、本校の研究の成果を体現している子供の姿をご覧いただくことができませんでした。来年度も、授業公開に関わっては様々な制限が伴うことが予想されます。GIGAスクールも本格化し、社会的要請による個別最適化へのパラダイム転換が進むことも予想されます。本校は、どんな状況においても、子供を主体とした学校づくりを行い、子供が学びをつくる学校に向かって研究を進めています。本紀要をご覧いただき、抱かれた思いやご質問等、忌憚のない意見を本校にお寄せいただけすると幸いです。

4 参考文献と補足

①学習指導要領解説

第1章総説

「今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍することは、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。」
平成29年7月学習指導要領解説第1章総説より

②中央教育審議会

答申197号 p11

「変化が激しく将来の予測が困難な時代にあってこそ、子供たちが自信を持って自分の人生を切り拓き、よりよい社会を創り出していくことができるよう、必要な力を確実に育んでいく」

平成28年12月21日中央教育審議会答申197号幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）P11

③姫野完治 2016

「アクティブ・ラーニングの目指すところは、『教える』から『学ぶ』へのパラダイム転換である。」

平成28年3月28日生田孝至・三橋功一・姫野完治、未来を拓く教師のわざ、第6章第2節アクティブ・ラーニング p104

④フレイヴェル 1976

“Metacognition” refers to one's knowledge concerning one's own cognitive processes

and products or anything related to them, (原文)

メタ認知は、自分自身の認知過程に関する知識と、それらに関連する成果やその他のものである。(本校訳)

Flavell, J1976, The Nature of intelligence, Lauren B. Resnick 編 12章
Metacognitive aspects of Problem Solving P232

⑤三宮真智子 2013

「認知についての認知、すなわち私たちの行う認知活動を対象化してとらえることを意味します。」

平成25年9月10日三宮真智子、ピア・ラーニング～学びあいの心理学～、10章
メタ認知におけるピアの役割 p160

⑥中教審報告 2019

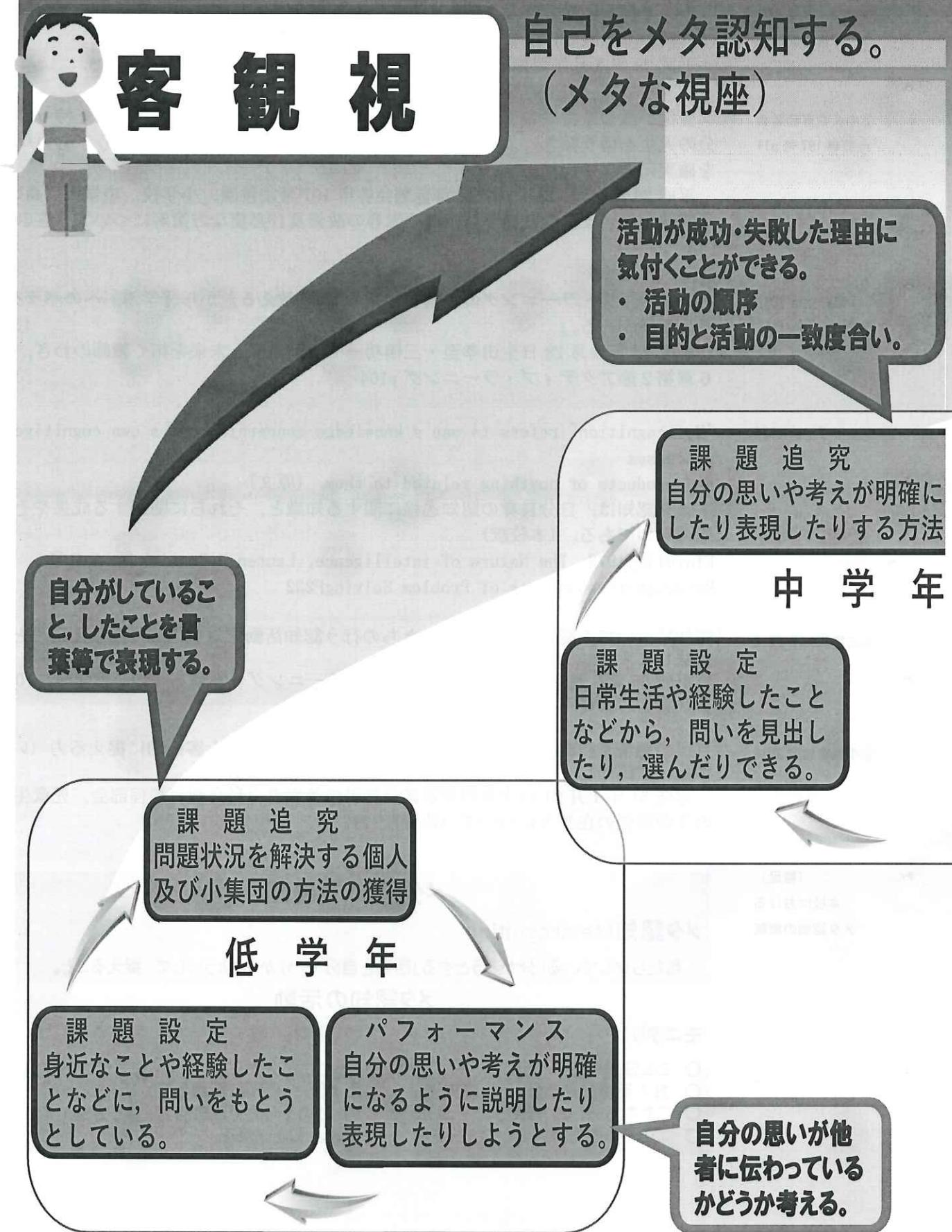
「自己の感情や行動を統制する能力、自らの思考の過程等を客観的に捉える力（いわゆるメタ認知）」

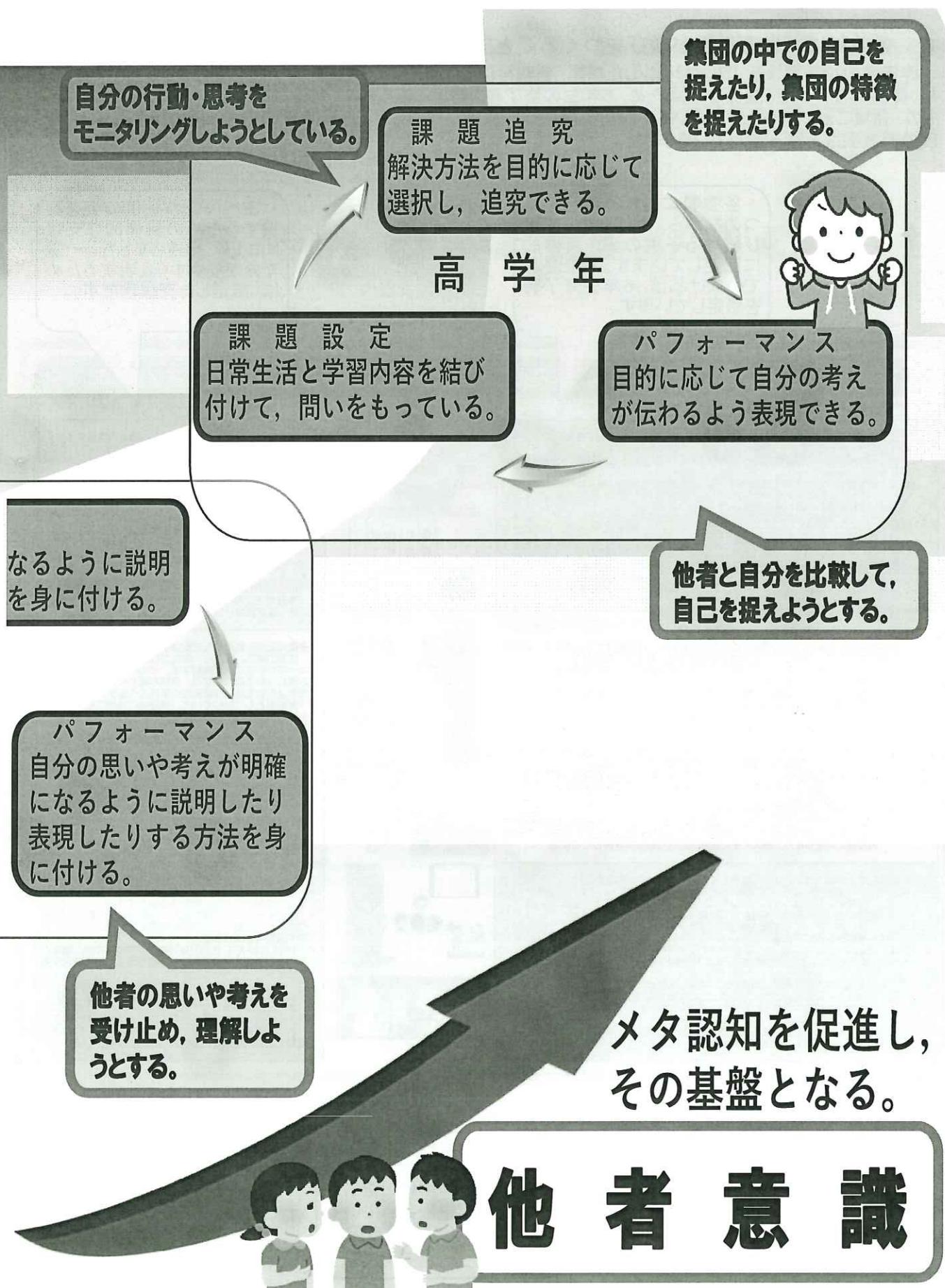
平成31年1月21日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会、児童生徒の学習評価の在り方について（報告）P10

(補足)
本校における
メタ認知の概略

メタ認知の概略	
メタ認知Metacognition	
私たちがしている「分かろうとする」活動を自分で「分かる」ようにして、捉えること。	
メタ認知の活動	
モニタリング	コントロール
<input type="radio"/> ここ分からん…気付き <input type="radio"/> お！何か分かった！…感覚 <input type="radio"/> これなら5分でいけそう。…予想 <input type="radio"/> このやり方でいいのか？…点検	<input type="radio"/> ここが分からないから、まずは大体を捉えよう。…目標・計画設定 <input type="radio"/> このやり方では駄目だ。違う方法でやってみよう。…修正

5 自己を見つめ、学びの主体者となる子供の姿



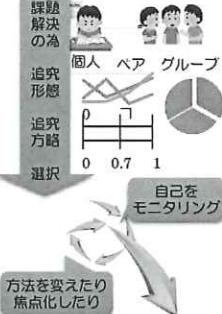


6 各教科における子供が学びをつくる姿と支援例

昨年度の授業実践をリフレクションした結果、各教科における子供が学びをつくる姿にまとめることができました。教科特性が大きく関係してくるため、6年生の修了時を想定できるもの、発達段階に応じて分けた方がよいもの、領域ごとに分けた方がよいものがありました。各教科ごとに規定した具体的な子供の姿に向かって、今年度の授業実践を積み重ねていきました。

各教科における自己を見つめながら、主体者として学び続ける子供の姿を具体的に記述しています。特記されていなければ、6年生修了時を想定しています。

左ページの子供の姿を実現するための具体的な支援について記述しました。一覧で分かりやすく表現するために、厳選した支援例です。

子供が学びをつくる 算数		～自己を見つめ、学びの主体者となる子供育成～
課題設定	算数科における自己を見つめながら、主体者として学び続ける子供	 <p>現実の問題状況</p> <p>個人 言葉 理念 集団 地域 値</p> <p>整理</p> <p>算数 国語 社会 理科 図工</p> <p>課題設定</p> <p>単元LV 小単元LV</p>
課題追究	<p>課題を解決する際に、追究形態、追究方略を選択し、自力追究する。そして、追究中に、自己をモニタリングして、追究方法を変えたり、焦点化したりする。</p> <p>(1) 課題を解決する為に、追究形態、追究方略を選択し、自力追究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 個人追究、ペア追究、グループ追究、シクリー、ワールドカフェ等 ② 算数科固有の追究方略の選択 ③ 図、表、グラフに表現して状況を整理する。 ④ 問題状況を数理的に整理して式で表現する。 <p>(2) 追究中に、自らをモニタリングして、追究方法を変えたり、焦点化したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 貢がれる自力追究の基、必要に応じて追究形態を変更する。 ② 個人であろうとペアであろうと、自力追究は継続し続いている。個人で考えをまとめたい場面、意見がほしい場面等、必要に応じて子供が自ら個人やペア、グループを選択する。 ③ 算数科固有の追究方略の価値の実感 ④ 選択した追究方略で、問題状況を整理して数理的に処理しようとした結果、コストが見合わないと感じたり、方略の限界に気付いたりする。その際に、他の追究方略に変更したり、あえてそのままの追究方略を突き通したりする。 	 <p>【子供の追究形態の選択を支援する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の難易、量から、協同か協働か、個人かペア、グループか等を子供が判断する。その為に、学習経験を積み重ねられるようにする。課題が難しく、多岐に渡る総合的な内容であれば協働的で学ぶよう促す。 ・算数科として開いていて、数理的に処理できる内容であれば協同的に学ぶよう促す。 <p>【自力追究を子供がメタ認知し、調整するよう支援する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自力追究中に、自己をモニタリングできるように、ペアやグループで相談することを必要に応じて教師が提案する。また、子供が自ら判断して交流できる学級風土や授業ルーチンを子供と教師で予め構築しておき、 ・選択している追究方略の難しさに子供は直面することがある。必要に応じて教師が直接支援したり、他者と交流したりするよう教師が促す。
パフォーマンス	<p>追究結果を既習の表現方法から選択して伝わりやすく構成して表現する。そして、追究方略、追究内容、表現方法、結果等の観点で、それぞれのパフォーマンスを整理する。</p> <p>(1) 追究結果を既習の表現方法から選択して伝わりやすく構成して表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 算数科固有の表現方法を選択して表現する。 ② 表現媒体の工夫 ③ 表現内容に応じた媒体の選択(ミニホワイトボード、ホワイトボード、iPad等) <p>(2) 追究方略、追究内容、表現方法、結果等の観点で、成果物や発表を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 子供一人一人、或いは数人で表現した成果物を整理する。 ② 追究方略(四則演算、数直線等の図による表現等) ③ 追究内容(問題状況などのパラメータに着目しているのか) ④ 表現方法(数直線、複線図、縦分図、帶図、面積図、アレイ図、具体物等) ⑤ 数理的に処理した結果の答えや主張等 	 <p>【自力追究結果を子供が表現できるよう支援する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自力追究の過程や結果を他者に伝えるために、どの表現方法を選択するのか吟味するよう促す。 ・パフォーマンスも自力追究の過程の一つである。ペア、グループで相談して、本時の課題に最も適した方法で表現を選択するよう促す。 ・iPad等のICTを活用して表現すべきなのか、紙などを切って説明すべきなのか、表現方法について吟味するよう促す。 <p>【子供が学習を構造化し、概念化できるよう支援する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題に応じて、追究方略、追究内容、表現方法等のどの観点で整理すべきなのかを吟味するよう促す。 ・他者を見る事は、自分を見つけることにつながる。他者の考え方を理解し、そのよさを見つけるよう促す。

本校の子供が学びをつくる過程である「課題設定」「課題追究」「パフォーマンス」の3つの過程に分けて記述します。「メタ認知」については、全ての過程に関係するため、3つの過程全てに記述しています。

各教科における学びをつくる授業のイメージを図に表現しました。教科特性に応じて一単位授業を想定しているものと単元レベルのものがあります。

7 今年度の授業実践のリフレクション

今年度は、新型コロナウイルスの影響で、休校やグループでの活動が制限される等、難しい状況が続きました。6月から授業実践を積み重ね、担任団全員が研究授業をすることができました。今年度の授業実践を授業者一人ひとりが振り返り、今後の一人ひとりが糧とすると共に、全体に還元できるよう、A3で1枚のリフレクションシートにまとめました。左側に授業設計の概要を図と言葉に説明し、実際の授業についてリフレクションしたものを右側に具体的に記述しました。分かりやすくするために、1ページにまとめることとしました。各教科の学びをつくる姿、各教科の指導案と共にご覧ください。

授業設計の概要について、図に表現しました。実際の授業に使用したスライドや子供の学習の成果物等を活用して、本単元の概要を視覚的に捉えられるように工夫しました。

左に表現した図を基に、授業設計の概要について、言葉で説明しました。教師の支援とその目的を具体的に記述しています。カリキュラム・マネジメントに関わる支援を【カリ・マネ】、メタ認知能力を高める支援を【メタ】と表記しています。

実践した学年と単元名です。
実践例6年生 比例・反比例

自分たちの課題を把握

全国学テの分析
課題意識の醸成
単元テーマ設定
理由の説明！活用力です！
Mission!
釘の本数の調べ方をプレゼンせよ！
釘を500本用意してほしい
20本で32グラムですよ
追跡方略の選択
対話的に研究
自己をモニタリング

授業設計の概要

【カリ・マネ】自己の課題把握と単元テーマの設定
昨年度の全国学力学習状況調査の全国の結果を子供に提示し、全国的に理由を説明する力が低いことを子供との対話の中で確認しました。算数科においては、理由を説明する力やこれまでの学びを活用する力が必要であることから、単元テーマ「Let's 活用！」を子供と設定しました。

【カリ・マネ】現実感と文脈のある問題状況の提示
架空のキャラクターが、子供たちにお話しをします。「釘の本数の調べ方が分からず、教えてほしい。」だから、「釘の本数の調べ方をプレゼンテーションする」という現実感のある文脈です。説明する目的を明確にして、数学的活動に向かうようにしました。

【メタ】追跡方略の選択を促し、見通しをもって課題追究できるよう支援する。
これまでの学習を想起するよう促し、本時の課題を解決する追跡方略の見通しをもつよう支援しました。前時までに、子供は複数回、四分図、グラフ、〇図、表の方略を見出していました。本時において、まずどの方法で取り掛かるか子供のポートフォリオであるそれぞれノートを基によう促しました。

【メタ】グループ追跡の過程で、仲間と対話、自分で、自らの学びを対象化
子供は自力追究しながら、必要に応じて近くの仲間と対話しながら追跡し続けます。今日の問題状況に対して、複数回がいいのか、四分図がいいのか、統繩しながら学習を進めます。自分にとってどの方略が最適なのか、常に判断するよう教師は働きかけます。次第に、本時にとっての自己の最適が見ええてきます。

【メタ】多様な考え方子供が自ら整理し、板書を構成しながら練り合う全体交流
グループごとに作成したホワイトボードを子供たちが対話的に整理します。これまでの学びから方略ごとに整理するよさを子供は実感しています。正確、簡単、便利の観点で、それぞれの方略のよさと共通点について練り合います。

【メタ】子供から出された疑問を基にした小交流を交え練り合い(☆)
釘の重さ、本数の関係は、「20本32g」「1本1.6g」「500本?」という関係にあります。「1500×1.6=」とするか、「1.6=500」との関係について、全員が図と照應せながら説明できるように、小交流を促しました。そして、全体で練り合う場面を設定しました。

【カリ・マネ】学習したことを次の学習に活用
振り返りの場面で本時の学びのよさについて話し合うよう促しました。本時で生まれた問い合わせを次時に活かせるよう支援しました。

授業のリフレクション

小学校算数の関数の考え方の集大成として
1次元による図を使いこなす子供

【カリ・マネによる学びをつくる姿】子供一人一人が高いモチベーション
これまでの学びの蓄積によって、子供は現実の問題を解決する際に、比例が有用であることを実感しています。本時においても、それぞれのこだわりの方略を上手く活用して課題を解決しようと高いモチベーションをもって取り組んでいました。

実際の授業の板書の写真です。

追跡方略の選択と必要に応じて対話的に進める自力追究
既存ある複数回、四分図、グラフ、〇図、表の5つの方略の中からいくつかを選択しました。「僕は現実に使うなら複数回だな!」四分図と複数回って、結局同じノートにつぶやいたり、友達と対話したりしながら、主体的に学びを進めました。

【メタな姿】式と図の照應関係
沢山の方略が出来ましたが、子供が対話中に整理した結果、4つに分類され、それぞれの方略のよさについて説明しました。「プレゼン」という目的に応じて、式と図の照應関係の大切さを指摘する意見が多く出されました。

【メタな姿】1次元による表現のよさの実感
比例関係にある数量の関係は、1次元による表現で十分説明可能で、2次元のグラフは、むしろ情報過多で説明しづらいです。本時においてこの複数回表現方法を子供はそれぞれ選択することができていました。

【カリ・マネによる学びをつくる姿】学びのよさの実感とその限界の理解
本時で子供は、比例関係における1次元による表現を用いてこなす者は、関数の考え方の東人と言えます。関数は限界を越え、2次元への飛躍を余儀なくされますが、中学校の間違の考え方へと接続されます。これは数学的な見方・考え方へと磨き洗いされ、本質的な

左のカリキュラム・マネジメントに関わる支援の結果の姿を【カリ・マネによる学びをつくる姿】と表記して、具体的な姿を記述しました。

左のメタ認知能力を高める支援の結果の姿を【メタな姿】と表記して、具体的な姿を記述しました。

8 子供が学びをつくる指導案

「子供が学びをつくる」授業の実現のための指導案についてです。授業者の思いをなるべくコンパクトに表現できるような構成とし、5~6ページとしました。1ページ目は、教材や題材の特徴の分析です。2ページ目は、目指す子供の姿や本研究と関わる教師の支援、本単元の目標についてです。3ページ目ないし3~4ページ目は、本研究と関わる授業者の主張点です。「子供が学びの主体者となるカリキュラム・マネジメント」や「子供が自己を見つめるための支援」、各教科において深い学びを実現するための取組などを解説しています。その後は単元計画、本時案を各1ページとしています。次項より、ページ毎に簡単に解説しています。

子供が学びをつくるためには、深い教材研究が必要です。

学習内容の背景や系統性について、授業者が学習指導要領などを読み解いたものを記述しています。

表題よりも小さいフォントで書かれているものは、引用・参考文献です。

本単元で指導する教科・領域固有の資質・能力です。

本単元で獲得を目指す資質・能力の核となる概念を端的に述べます。

先行研究や先行実践を基に教材の難しさや解決の方策、指導の方向性について論述します。

本単元で鍛える見方・考え方について述べます。

第6学年時の子タイム(総合的な学習の時間)

令和2年9月29日(火)第3教時

「自分のこれから～『働くこと』調査隊！～」【実生活で働く人々と自己の将来】(25時間扱い)

授業者 鎌田尚吾

1 教材の特徴

学習内容の背景

幼園園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び方策等について(答申)(2015)

キャリア教育の手引き(2010)

小学校学習指導要領(2016)

総合的な学習の時間における

キャリア教育の充実に向けて

小学校学習指導要領解説総則編(2016)

今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっていると言われています。そのような時代においては、「個性や能力を生かして学びを深め将来の活躍につなげる」ことが大切です。そして変化の激しい社会に生きるために、「それぞれが直面する様々な課題に柔軟かつたくましく対応する」力を育むためにキャリア教育の推進が求められています。

キャリア教育に関しては、「児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的、職業的自立に向けて必要な基礎となる資質・能力を身に付けていく」ことができるよう、特別活動や道徳科など、各教科等の特質に応じて充実を図ることとされています。

今の時代を生きる子供たちは「自らの能力を引き出し、学習したことを活用して、生活や社会の中で出会う課題の解決に主体的に生かしていく」ことに課題があるとされています。

学校教育においては、キャリア教育の理念が浸透してきている一方で、学習指導要領解説総則編では、「将来の夢を描くことばかりに力点が置かれ、『働くこと』の現実や必要な資質・能力の育成につなげていく指導が懸念されていましたりするのではないか」という指摘があることや「夢を持つことや職業調べなどの固定的な活動だけに終わらないようにすることが大切」であると示されています。そのような課題を解決する方法を図1に示します。

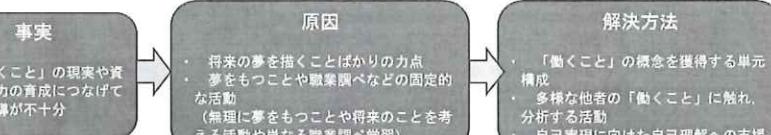


図1 総合的な学習の時間におけるキャリア教育の充実に向けて

本単元は、総合的な学習の時間の本質である探究的な学習を中心とし、他教科等と関連しながら実生活で働く人々や自己の将来について考えます。そして、子供たちが大人の「働くこと」の見方・考え方を分析しながら、自分自身の「働くこと」に関する概念を形成することを目的とします。

本単元では、「働くこと」の構成要素を、下記のような3つに焦点化します。

- ① 生きるため(生計維持):収入や安定した暮らしのため
- ② 自分のため(個性発揮):興味・関心など自分の思い、得意なことなどの個性を發揮するため
- ③ 他人や社会全体のため(社会貢献):関係性や楽しさなど他の人の生活を充実させるため 安全性や便利さや暮らしやすさなど他の人の生活の快適さのため

その中で特に②個性発揮、③社会貢献の実現の二つを軸に据え、学習活動を展開します。

子供たちは「働くこと」とは、「自分の個性や思いを發揮しながら、他人や社会全体のためになる活動」であるが、「一人ひとりの思いは多様で多くの構成要素が入り混じっていること」を理解します。また、生活のためには収入が必要であることやその職業がもつている特性に気付きます。

そのような学びを支えるために、今働いている大人の思いを聞く場を設定します。大人との関わりを通して、子供たちは自分の考え方や現在の自分に足りない部分を自覚し、これから自分の目標や今後の展望を抱きます。そして道徳や特別活動等での学びを生かして、自己を生かしたり、誰かの役に立ったりすることの意味や価値に気付きます。このように探究的な学習の中で自己を見つめ、「よりよい自分をイメージし、そこに向かおうとするの大切さ」を捉え、将来の自己の生き方を考えていきます。

実際に働いている大人が「働くこと」に対してどのような思いをもち、どんな見方・考え方をしているのかについて着目しながら、他の大人同士や自分との比較を通じ、共通点や相違点について考え「働くこと」を分析する。

本単元の目的

中心となる概念 「働くこと」

参考文献

尾高邦夫(1941)

「職業社会学」

岩波書店

白木みどり(2010)

「キャリア教育にかかる価値観形成についての考察」

上越教育大学研究紀要 29

本単元で鍛える見方・考え方

本研究と関連して整理した、各教科・領域で「目指す子供のゴールの姿(6年生修了時)」、実践を行った学年における「12月時点で目指す子供の姿」です。
課題設定、課題追究、パフォーマンスの観点で記述しています。

2 目指す子供の姿

	課題設定	課題追究	パフォーマンス
桐の子タイムが 目指す 子供のゴールの姿	実社会や実生活に 向き合い、理想状況を 実現しようとしたり、 課題を解決したりし ようとする意識をも ち課題を設定する。 課題追究のイメージをもつ。	課題を解決する際 に、追究内容、追究方 法、追究形態を選択し、 自力追究する。 追究中に自己をモニ タリングして、方法や 視点を変えたり、焦点 化したりする。	追究したこととともに、 自己の概念を形成し、日常生活の場面や次の学びへ生かす。 相手や目的に合わせて、既習の表現方法から選択して伝わりやすく構成して表現する。
桐の子タイムが 目指す 12月時点の 6年生の姿	実社会や実生活の 問題状況や理想状況 を自ら整理し、課題 や追究方法を設定す る。	目的に応じて、自ら 追究方法や形態を選択 したり、視点を明確に 定めて分析したりし、 必要なときには活動を 修正する。	全体としての概念構 造や自らの概念の形成・ 更新・変容を捉える。 相手や目的に合わせて、既習の表現方法から選択して伝わりやすく構成して表現する。

課題設定、課題追究、パフォーマンス、メタ認知について、「自己を見つめ、学びの主体者」として「子供が学びをつくる」ための具体的な支援です。代表的なものを記述しています。

課題設定、課題追究、パフォーマンスの全ての過程でメタ認知が育まれます。

子供たちが大人の「働くこと」の見方・考え方を分析しながら、自分自身の「働くこと」に関する概念を形成する

本単元における「自己を見つめ、学びの主体者となる」子供

追究

- 様々なゲストティーチャー(GT)との関わりの設定
- GTの「働くこと」の見方・考え方を整理分析するための、他教科におけるキーワード化や分類の活動の設定



パフォーマンス

- GTの「働くこと」のキーワードを全体で構造化する場の設定
- 自分なりの「働くこと」について表現し、交流する際の教師の価値付け

目標 実際に働いている大人の「働くこと」への思いや見方・考え方を分類・整理する活動を通して、「働くこと」の意味や価値を理解し、自分なりに将来をイメージしながら、それを目指そうとする思いをもつことができる。

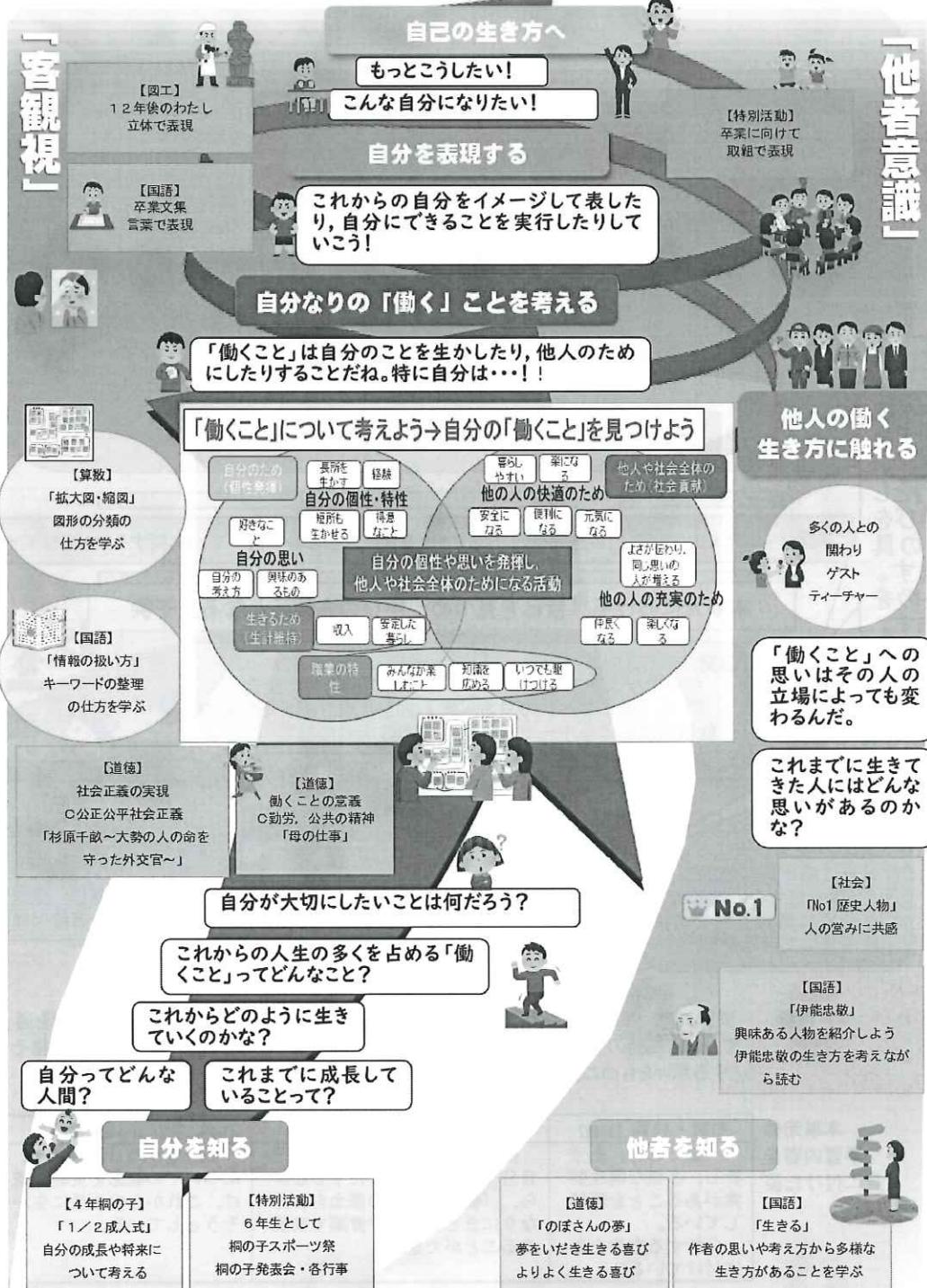
本単元の
学習内容を
身に付けた姿

知識・技能【知技】	思考・判断・表現【思判表】	主体的に学習に取り組む態度【主】
「働くこと」を分析し、多様な構成要素があることを理解している。 分析する方法を身に付けています。	働く人の思いを表現したり、自分や他者と比較したりしながら、「働くこと」の概念を自分なりにまとめ、図や言葉で表現することができる。	自分なりの「働くこと」についての概念を更新し続け、これから的生活に生かそうとしている。

本単元の目標と学習内容を身に付けた姿についてです。
「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点です。

本研究と関連した、授業者の主張点を述べています。
桐の子タイムでは、「子供が学びの主体者となるカリキュラム・マネジメント」について図化して解説しています。
カリキュラム・マネジメントのほか、「子供が自己を見つめるための支援」や、各教科の教科・領域で深い学びを実現するための取組についての授業者の構想を表現しています。

3 子供が学びの主体者となるカリキュラム・マネジメント



他教科等との関連等、子供と教師と指導事項が一致した学びの文脈を端的に表現しています。

単元計画については、見やすさや働き方改革を意識して、極めてコンパクトに表現しました。
単元の指導の文脈がわかるように、子供の学びの様子と代表的な支援のみ記述しています。

4 単元計画

時	子供の学習活動（○）
※	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6年生としての生活や自分たちの成長について振り返り、交流する。 4年総合 特別活動 ○ 自分はどんな人か、これからどうしたいかについて考え方交換する。 道徳 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分のことを考えるって案外難しい。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分で思うことと友達から見たことは結構違う。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">これからどうすればいいのかな。</div> </div>
1	<p>自分のこれからについて考え方！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これから自分が歩む道を考えたり、働く大人の気持ちを想像したりする。 <p>課題 子供が将来を意識することができるよう、中学校進学や大人への近付きに関する情報を提示し、これらの歩みを一緒に考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">これから中学生になって高校生、大学？そして働くね。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">大学卒業が22歳ぐらいで、そこから働く時間ってこんなに！？</div> </div>
2	<p>「働くこと」について考え方！</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分の好きなことが仕事になればいいな！</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">働くって大変そう…いやだなあ。でも働かないとい…。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">働くってどんなことかな？</div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ お金をもらうため？楽しいから？自分のこれからのために、できるだけたくさんの大人に聞きたいな！ ○ GT（【No.1】教育実習生の話）を基に「働くこと」を考える。
3	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分が成長したり、人生を豊かにしたりすることができるって言ってたね。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分で調べたり聞いたりしたい人を考える。</div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分で調べたり聞いたりしたい人を考える。
4	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">芸能人ってどんな思いなんだろう？</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">修学旅行でも働く人に聞けるね。</div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ GTから話を聞き、その人の「働くこと」への思いを考えて表現したり、自分と比較したりする。
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ GTから話を聞き、その人の「働くこと」への思いを考えて表現したり、自分と比較したりする。
6	<p>【No.2】アーティストの方</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分が好きなことをして楽しみながら、働いているんだね。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">アーティストの方と同じ所もちがう所もあるな。</div> </div>
7	<p>【No.3】消防隊員の方</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">市民を救い、安全に暮らしてほしいんだね。人のためにという思いがたくさん。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">これまでの人をまとめるところが多いに向かっている。</div> </div>
8	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分が好きなことをして楽しみながら、働いているんだね。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">これまでの人をまとめるところが多いに向かっている。</div> </div>

子供の発言例です。

課題やまとめは、枠囲みで強調しています。

研究と直結している支援については、網掛け文字で記述しています。

時	教師の支援（課題、追究、パフ、メタ）
11	アーティストの方と同じ所もちがう所もあるな。
12	これまでの人をまとめるところが多いに向かっている。
13	【No.4】修学旅行に関わる人々
14	自分のため、他人のためつながっているんだね。
15	自分なりに働くことや職業について調べたり聞いたりする。
16	身近な人でもたくさん話を聞けよ！
17	大変なこともいっぱいなんだね。
18	GTから話を聞き、その人の「働くこと」への思いを考えて表現したり、自分と比較したりする。（下記以外に税理士、社会福祉協議会の方、特別支援学校の先生などの分析を他教科等と関連し計画中）
19	【No.5】附属小の先生方
20	先生方にもいろいろな役割があるんだね。得意なこと違うんだ。
21	同じ職業でも、人それぞれ考え方ちがうこともあるんだ。
22	【No.6】元リポーター、現演奏家の方
23	途中道は変わっても、自分や家族のためにという思いを持っているんだ。
24	【No.7】大学の先生
25	自分の得意なことやしたいことを理解しているね。自分や世の中を知ることって大切だ。
※	これまでの学習を振り返りながら、自分としての「働くこと」をまとめる。

公開授業の本時案です。子供と教師と指導事項が一致した学びの文脈を表現しています。「子供が学びをつくる」過程の具現化を目指しました。

5 本時案 (14/25)

本時の目標

修学旅行で出会った人たちの「働くこと」をまとめたり、これまでの学習を振り返ったりすることを通して、「働くこと」についての自分の思いや考えを広げたり、深めたりすることができるようになります。

単元を通した課題
です。

学習活動（〇）と子供の姿

教師の支援（☆、課題、追究、パワ、メタ）と評価（◇）・評価方法(<>)

子供の学習活動です。

- 前時までの学習を振り返り、本時の課題を共有する。

課題❸ 子供が短時間で明確に本時の課題を共有し、学習活動の見通しをもつことができるよう、ICT や掲示物、個人の振り返りを活用して前時までの学びを振り返るよう促したりする。

子供の発言
や活動例です。

- 実習生は自分を成長させ人生を豊かにするものって言っていたね。

ひのき屋の方は、とにかく楽しんでいるけど、他の人のためにもなっているよね。

消防隊員の方は、自分よりも人を助けたり救ったりすることを大切にしていたね。

今の自分にとつての「働くこと」が少し変わったよ。社会貢献したいな。

修学旅行でたくさんの人間に会ったよ！ その方々の「働くこと」を分析しよう！

本時の課題 です。

修学旅行で出会った方々の「働くこと」分析！

- キーワードを選定し、分類・関連させ、「働くこと」に即して「働き方」を書く

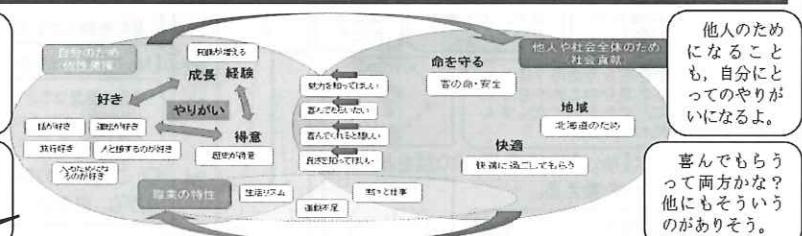
課題設定、課題追究、パフォーマンス、メタ認知に関わる支援については、単元計画と同様に、網掛け文字です。

課題追究の段階でメタ認知を意識した支援をする場合は、「追究メタ」と表記しています。

学び合いの様子
を構造化します。

本時で子供が獲得する概念的知識です。

子供がメタ認知している姿を
[META]ポイントとして表現してい
る指導案もあります。



自分のためにしていることが他人のためになったり、他人のためにしていることが自分のためになったりするんだね。大切なのはその人にとっての「やりがい」かな！？

- 本時やこれまでの学習を振り返りながら、自分なりの「働くこと」を考える。

△△△ 本時やこれまでの学びを通して、他者（いろいろな働く大人・友達）と比較しながら「働くこと」について自分なりにどのように考えたかを表出するよう、振り返りシートに記入したり、全体で交流したりする場を設定する。

◇【META】 他者の考え方と比較したり、これまでの学びを振り返ったりして考えたことを言葉で表現している。【思判表】<振り返りシート・発言>

僕は、絶対に自分のやりたいことを仕事にしたい！
そのためにはこれから努力していくぞ

自分の特技や、やりた
ことをしたいけど、それ
が他の人のためにもな
くなるようにしたい。

私のやりがいは、
とにかく人を救うこ
とや、困っている人
を助けること

楽しいほうがいいけど、それだけじゃなくて、自分なりのやりがいがあるのです。

本時の評価は、◇マークがつきます。【知技】は「知識・技能」、【思判表】は「思考・判断・表現」、【主】は「主体的に学習に取り組む態度」を指しています。
【META】ポイントと、評価が一致している場合は、【META】ポイントに評価の観点・方法を表記しています。